

未来☆管理栄養士



今年も、大学祭で
越前市とのコラボが実現。
越前市
食育フェア

越前市と仁愛大学の
コラボレーション企画として
開催された「食育フェア」。
地元産の食の魅力が学内にあふれ、
多くの来場者が訪れる中、
健康栄養学科の学生スタッフが
食と健康の情報を発信しました！

自ら学びたい内容を勉強し、展示物に仕上げる。

大学祭期間中にキャンパス内で開催するようになって今年で3回目を迎えた「食育フェア」。健康栄養学科からは、2年生を中心とする全26名の学生が有志スタッフとして参加。食と健康の知識を題材にした各コーナーの実施や、「おもちのふるまい」「キッズキッチン」など越前市から出展された様々なブースのサポートを行いました。

健康栄養学科が出展した各コーナーの内容は、「栄養とスポーツ」「栄養と豆知識」「食べ合わせコーナー」「衛生管理コーナー」。今年のテーマである、「もっと楽しもう！まいにちの食にあわせ、学生自身が興味をもつ内容を取り上げ、先生のアドバイスを受けながら約3か月間かけて出展内容の計画から必要な準備を進めてきました。授業内容の先取りや復習に加え、来場者の方々に説明する中で得られるコミュニケーション力の向上、これまでつながりのなかった先生や友だちと交流することによる新しい人脈づくりなど、正課外の活動に積極的に参加することにより様々なメリットが生まれました。



- ①キッズキッチン。5歳児がすりばちを使って料理に挑戦。
- ②地域の来場者で長い列ができた「おもちのふるまい」。
- ③タペストリーや健康器具など様々なツールを使って、食と健康についての面白い知識を紹介。

健康栄養学科2年
坂野 泰 | 鯖江高校出身 |

「スポーツと健康コーナー」を担当しました。情報を集約したメインの掲示物であるタペストリーがなかなかうまく構成できず、苦労しました。また、健康栄養学科で学んだ専門知識をわかりやすい言葉に変えて一般の方々に伝えるのが難しかったです。展示内容は、これまでに学習した分野だったので、今回新しい視点でまとめ直したことによって、良い復習となりました。





健康栄養学科の なるほど講義 公衆衛生学実習

健康に大きな影響を与える”環境”。
その実態を調査・分析し、
健康との関わりを科学的に考える。

原理を確認しながら実験・調査を行います。

管理栄養士として 環境全体から見る力を。

●今回の講義

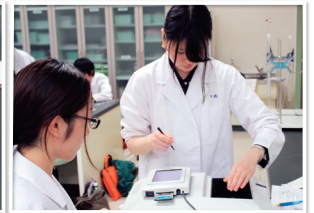
水質検査

〈河川など公共用水域の調査〉

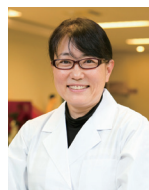
日本の水は、家庭の水道や農業用水などの利用目的に合わせて適正な水質基準が決められています。この講義では、身近な様々な場所から採水し、汚染度の指標となる水中の溶存酸素量、生物化学的酸素要求量や総窒素量などを調査。水質保全の実態を知り、健康との関係を考えます。



薬品によって各環境の水の汚濁レベルを調査します。



分光光度計を操作して、吸光度をチェックします。

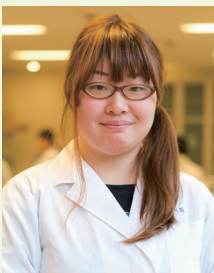


「公衆衛生学実習」で学ぶこと

鳴瀬 碧
准教授

ベースとなる「公衆衛生学」は、大気、水、光といった生活環境因子から栄養、生活習慣や社会環境因子まで、私たちを取り巻く様々な因子と健康との関係を調査・分析し、人々の健康の維持・増進や疾病予防のためにはどうするべきかを研究する学問です。実習では、化学実験や人を対象とした調査研究を通して、人の健康に影響を与える要因をより深く認識し、管理栄養士としての資質向上を目指します。

おしえて! / 先輩のおすすめポイント



実験だからこそ 残る知識があります。

自宅付近の用水が、意外にキレイで驚きました。座学では「ふうん」で終わっていたことが、実験すると強い実感として残ります。他の場所もいろいろ調べたくなりました。

健康栄養学科2年 高坂裕里 | 武生高校出身 |



なぜ「水」の調査? 最初はびっくり。

管理すべきなのは「食」という考えがあったので、ショックを受けました。今後は、視野を広く持って、環境全体から健康について考える力をしっかり身に付けていきたいです。

健康栄養学科2年 平井志保 | 小松明峰高校出身 |



伝えるのが上手な 管理栄養士に。

化学は得意ではないですが、グループみんなで協力しながら実験を行いました。「健康管理とは何か」を、多くの人にわかりやすく伝えられる管理栄養士になりたいです。

健康栄養学科2年 上山恵璃 | 勝山高校出身 |